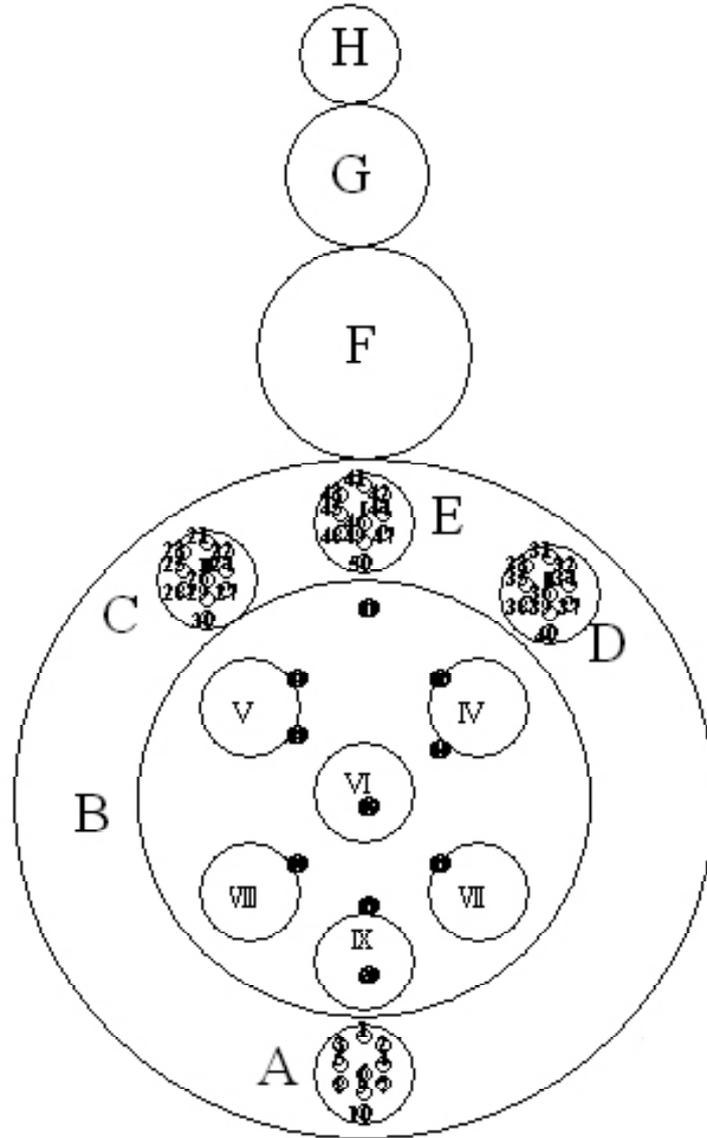


秋分儀式

I O S 儀式魔術文書 AE06A



THE OFFICIAL ORGAN
OF
I O S

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I O S ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に秋分点の前後48時間以内に実施すること。2006年の秋分点通過は、9月23日13時03分(日本標準時)である。

儀式内容は、中央の柱の秘儀を中核に秋分の祝祭を実施する。

1 霊魂論

伝統的カバラにおいては、人間の存在について三つの基本原理を想定している。⁽¹⁾

人間の霊魂の神聖な源泉 セフィロトの相似形としての人間の創造 人間が神的領域にあることの影響
--

第1の人間の霊魂の源泉については、人間の霊魂の一部は「神聖なる火花」であることを複数の神話大系が言及しており、カバラにおいても同様の見解を表明している。

また、第3の人間が神的領域にあることの諸影響については、専門的と言うより技術的な個々の側面に言及する必要があるため、ここでは割愛する。

第2のセフィロトの相似形としての人間の創造について若干詳しく補完しよう。

カバラの伝統では、肉体と不可分の霊魂をネフェシュ(נֶפֶשׁ)、ティックーン(תִּקּוּן)により昇華した霊魂をルアク(רוּחַ)、そして最も神的領域に近い霊魂をネシャマー(נִשְׁמָה)と呼び、人間の霊魂は上記の三層構造で表現されてきた。⁽²⁾この三層の霊魂をナラン(נִרְנָן)と言う。⁽³⁾このナランはゾーハル文献群において詳細に論述されたが、『ゾーハル』以後にはさらに高次の二つの霊魂層であるイエキダー(יְעִקְדָּר)とキアー(קִיָּא)についても語られるようになった。⁽⁴⁾

黄金の夜明け団のカバラは、上記のナランを『第3知識講義』において次のように語っている。

ネシャマー 至高の三者(ケテル~コクマー~ピナー)
ルアク 六セフィロト(ケセド~ゲブラー~ティファレト~ネツァク~ホド~イエソド)
ネフェシュ 最低部(マルクト)

この配置はギカティラの『光の門』に由来している。ギカティラは至高の三者をピナーに集約している。⁽⁵⁾同じ帰属について『ゾーハル』第三巻に記述がある。⁽⁶⁾

さらに黄金の夜明け団のポータル文書『小宇宙 - 人間』において、ナランの人間における機能とイエキダーとキアーについても語られる。⁽⁷⁾三層構造においてネシャマーの帰属先は至高の三者であるが、イエキダー等を論ずるときは、イエキダーがケテル、キアーがコクマー、ネシャマーはピナーに帰属する。

ゲロナのラビ・アズリエルは、イエキダーをケテル、キアーをコクマーに帰属させたが、その後のナランについてはやや異なる配属を当てている。⁽⁸⁾

(1) Isaiah Tishby, *The Wisdom of the Zohar, Volume II*, Oxford : Oxford University Press, 1989, p.679.

(2) Dr. Philip S. Berg, *The Wheels of a Soul*, Research Centre of Kabbalah, 1984, pp.96f.

(3) Gershom Scholem, *Kabbalah*, New York : Meridian Books, p.155.

(4) Scholem, p.157.

(5) Rabbi Joseph Gikatilla, *Gates of Light Sha'are Orah*, San Francisco : HarperCollins Publishers, 1994, p.300.

(6) Tishby, p.693.

(7) リガルディー編 『黄金の夜明け魔術全書 上』 国書刊行会、1993年、143-151頁。

(8) Tishby, p.693.

黄金の夜明け団の直接の典拠は、マザースが英訳（部分）した『カバラ・デヌダータ』と思われる。下記の図版は『デヌダータ』第二巻の『カバラ靈魂論 トラクト 』から引用した。⁽⁹⁾

右図は複雑であるが、これまで概観してきた靈魂の構造を図式化したものである。

上部の三大円F、G、Hは、注釈には「下位のごとく分割された至高の三図像（Trespecies Sublimiiones dividuntia ut infima）」とあり、この三大円がそれぞれ最下層の複合大円のような構造を有していることを示す。

この四つの大円は四界に対応している。

キアー	アツィルト界	大円H
ネシャマー	ブリアー界	大円G
ルアク	イエツィラー界	大円F
ネフェシュ	アッシャー界	大円A～E

ネフェシュを意味する複合大円の内部は、次のごとし。

最下部の中円Aは「妻たちの場に所属する魂群（Psyches factivae loco Uxoris factivae）」であり、10個の魂の小円1～10を内包する。

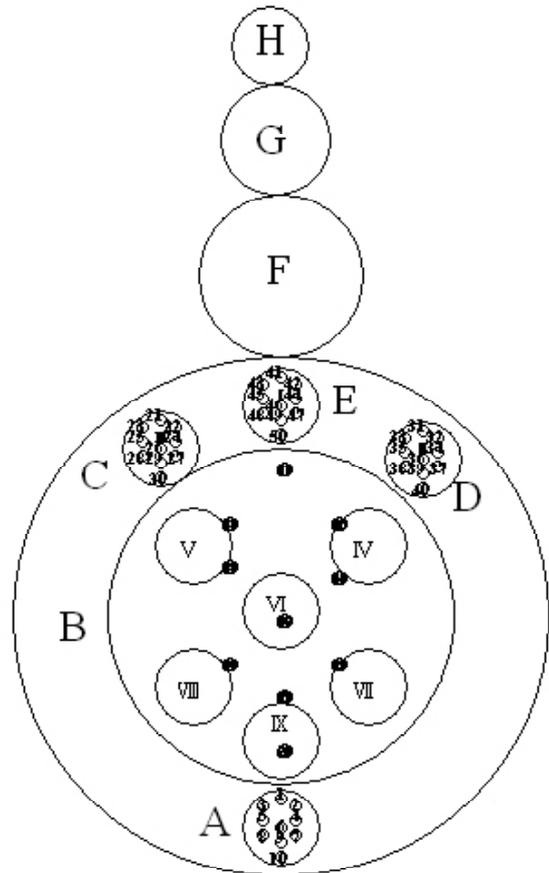
大円の中心を占める中大円Bは「ザウイル・アンピン、ミクロプロソポス群に所属する靈的な魂群（Spiritud Psyches factivae loco Seir Anpim S. Microprosopi Factivi）」であり、10個の精神の小円11～20を内包する。

左上の中円Cは「母たちの群に所属する精神的な魂群（Mens Psyches factivae loco Matris Factivae）」であり、10個の精神の小円21～30を内包する。

右上の中円Dは「父群に所属する生ける魂群（Vitalitas Psyches factivae loco Patris Factivi）」であり、10個の生命の小円31～40を内包する。

複合大円の最上部にある中円Eは「アリク・アンピン、古へのマクロプロソポス群に所属する秀でた魂群（Singularitas Psyches factiva loco Arich Anpin S. Macroprosopi i Longanimi Factivi）」であり、10個の秀でた魂の小円41～50を内包する。

また、この複合大円には10個の世界の中円がラテン数字の から で示されている。



以上の原注に加えて解釈を付すと、アッシャーの複合大円には、⁽¹⁰⁾ のラテン数字で示されたアッシャー界のケテル（中円E）、コクマー（中円D）及びピナー（中円C）があり、各中円は次に示すネフェシュの上位の三要素を表す。

中円E 秀でた魂（ネフェシュ・ハ・エロヒト。נפש האלוהית）

中円D 生ける魂（ネフェシュ・カィヤー。נפש חיה）

中円C 知性的魂（ネフェシュ・ハ・シクリート。נפש השכלית）

から を付された六つの中円はアッシャー界のコクマーからイエソドで形成されるミクロプロソポスである。ザウイル・アンピンは下位の神像を構成するため、小円11から20がマクロプロソポスの上に投影されたセフィロトの木を同時に構成する。

底部の中円Aはアッシャー界のマルクトであり、ラビ・ハイム・ヴィタルの言うクリポト界と接する魂の下位部分、自然魂（ネフェシュ・ハ・ティヴィート。נפש הטבעית）である。

⁽¹⁰⁾ 『ソーハル』第三巻によれば、これは動物的魂（ネフェシュ・ハ・ベヘミト。נפש החיה）である。⁽¹¹⁾

(9) Knorr v. Rosenroth, *Kabbala Denudata*, vol II, Zurich : Georg Olms Verlag, pp.242f.

(10) Scholem, p.157.

(11) Tishby, p.712.

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (P C)、すなわち「先導者」の1名である。

P C は、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い、白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオーン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間 (Robing Room) において、光の法衣を纏う。

(2) トーラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト、ティファレット、ピナー、ココマー及びケテル神殿を使用する。

4 魔術の技法的側面

(1) 光体の変容

通常の儀式では、小神像（ウシャブティ）という緩衝材となる外部の霊体を変容させ、召喚の座ともなるアケファロスの外衣となっている。I O S が術者の光体自身ではなく、アケファロスの外衣を用いるのは低位神格の召喚に失敗した場合の被害を局限するためである。

しかし、今回の儀式ではアケファロスの外衣を内側から放射する靈魂の波動により、アウゴエイデスに変容させる。アウゴエイデスは、アケファロスよりも術者自身に近い光体である。

神智学的表現を用いれば、低次のネフェシュの放散であるエーテル体と、高次のネフェシュの放散であるアストラル体により術者の光体が形成される。⁽¹²⁾

伝統的カバラでは、このアウゴエイデスを「輝きの外衣」（レブシャート・ハ・シャニイ。לְבָשֵׁת הַקְּדוּשָׁה）または、「第二外衣」（レブシャー・ハ・シェニイ。לְבָשֵׁת שְׁנִיָּה）と呼ぶ。⁽¹³⁾ 新プラトニズムのアイテールに該当する概念はカバラでは、「似姿」（ツェレム。צֶלֶם）である。つまり、「外衣」を構成するのは、様々な精妙さの段階にあるツェレムである。最高次のツェレムは「神聖なるツェレム」（ツェレム・エロヒム。צֶלֶם אֱלֹהִים）と呼ばれる。ツェレム・エロヒムの例は守護天使である。人間の誕生時に立ち会う天使のツェレムが人間の上に転写されたものが守護天使と呼ばれる。これを魔術的に使用した例がアブラマリンの技法になる。⁽¹⁴⁾

(2) 呼吸による光体の変容

秋分儀式においては、レオノラ・レフト博士の紹介した呼吸の技法を使用して、光体を変容させる。⁽¹⁵⁾ すなわち、息を吸いながら光体の上部から光を導入しつつ聖名ルアク（קַיָּוָה）を唱える。呼吸を停止し、光を体内に充満させて聖名エロヒム（אֱלֹהִים）を唱える。そして、光により光体を浄化しながら、息を吐き聖名カィーム（קַיָּוָה）を唱える。

(12) Pat Zalewski, *Kabbalah of the Golden Dawn*, St. Paul : Llewellyn Publications, 1993, pp.94-98.

(13) Gershom Scholem, *On the Mystical Shape of the Godhead*, New York : Schocken Books, 1991, p.271.

(14) Sholem, *Godhead*, pp.314f,n.

(15) Leonora Left, *The Kabbalah of the Soul*, Rochester : Inner Traditions International, 2003, pp.306-318.

最初は、声に出して練習してみる。アストラル儀式の最中は無声の詠唱でも良いが振動を感じるようにすること。

なお、儀式参加者中、PCのみは律法の宰相とアウゴエイデスを複雑に着こなすことになる。

(3) 黎明視

認知神経心理学の研究成果によると、人間の脳は外部の視覚情報が混乱すると脳内に蓄積された様々な視覚像を投影することがある。視覚情報の混乱は良く見えない場合に発生するので、緑内障等の病気で視力が低下しているとき、或いは暗い場所で物をみようとしたとき、水晶球などの不鮮明な像を結ぶものを見ているときに発生しやすい。これらのエラー・パターンは、⁽¹⁶⁾かなり高い確立で発生する。この視覚情報の混乱による幻視を「シャルル・ボネ諸侯群⁽¹⁷⁾」と呼ぶ場合もある。

古来、魔術師はこの原理を熟知して、幻視の導入に使用していた。視覚像の混乱は、古代神オーディンのような片目の賢者の伝説、黄昏時が逢魔が時であるとの解説、スペキュラムの利用等に適用された。一方、言語入力への混乱による操作には、呪文の反復（単純類似構音の連続による記憶操作⁽¹⁸⁾）、ゲマトリア等の文字の操作などが多用された。

人間の脳、特に伝統的な秘教的訓練の施された人間の脳は巨大な情報のプールである。

上記の技法は、認知神経心理学の説明した脳の認知プロセスを意図的に混乱させることで、意識が把握できない脳の共有情報（個人的、集合的無意識）を利用するために行われた。

今回は、比較的簡単に実践できる視覚像の混乱を利用した黎明視という技法を適用する。

(4) 呪文の構成

今回使用したのは呪文ではなく聖名である。アリのユキドより、四界に対応する拡張した聖四文字の数字を使用した。一例を挙げると、イェツィラーに照応する45マーの聖名は、セフィロトの木の上においてはZO（ザウイル・アンピン）に対応する。聖四文字は、ヴァウを先頭に再構成し、VaHaYoHaとした。⁽¹⁹⁾

なお、第五界への鍵は八つの名前の累計である702の数字を使用した。⁽²⁰⁾

5 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

今回も、シナリオ文書を単純化したので記憶してもらいたい。黎明視の妨げとなるので、テープの録音も不要である。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(16) グザヴィエ・スロン、『認知神経心理学』、白水社、1995年、39-40頁。

(17) <http://jiten.com/dicmi/docs/k12/17252s.htm>

(18) スロン前掲書、63、64頁。

(19) Aryeh Kaplan, *Meditation and Kabbalah*, York Beach : Samuel Weiser, 1982, p.212.

(20) Kaplan, P.217.

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化する。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとポアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なPCの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

PCは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

PC：「I O S の兄弟姉妹たちよ。秋分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

PC：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PC：聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー (אור'ים ססתי'י)

わが脚を封じる。」

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC：聖名とともに「アバグ バググ (אבג בגג)

わが心臓を封じる。」

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC：聖名とともに「アリム ティパー (אר'ים תי'פא)

わが右腕を封じる。」

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC：聖名とともに「アブリース セシー イアー (אור'ים תסי' יאה)

わが左腕を封じる。」

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル (אר'ים ייו די'אל)

בגג (אבית תל בגג) わが首を封じる。」

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：聖名とともに「アブ パク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー (ה'ד'ד'ק'אב

פאד קי'טר סס אחד) わが生命とすべての部分を守護するために。」

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス

(אור'י פת' יהו' חיו' יו' זהו' יהו' תי'תס) わが天蓋を封じる。」

全員：「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成とトーラーの宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

五界を結ぶは、われなり。

諸天界へ上昇せるは、われなり。」

参加者は順次、P Cに従う。あなたの番である。
扉の輝きが増大するとともに、瞬時にあなたはティファレト神殿に転移した。

(2) 第二のアウゴエイデスの顕現 (ティファレト神殿)

P Cは、ティファレト神殿の東壁に立ち、東面して聖なる呼吸を開始する。

「聖なる呼吸により第二のアウゴエイデスを纏わん。」

「ルアク (רַאֲק)・・・エロヒム (אֱלֹהִים)・・・カィーム (קַיִם)」
それはすぐに朗々と響き渡る唱名に変わる。

「ルウーアーハー・・・エルウーオオーイィーム・・・ハアアーイィーム」

参加者は東面し、P Cに唱和する。

吸気とともに頭頂から光が吸い込まれる様子を視覚化し、聖名ルアク (רַאֲק)を詠唱する。

「ルウーアーハー」

光が身体のなかに充滿するとともに呼吸を停止し、聖名エロヒム (אֱלֹהִים)を詠唱する。

「エルウーオオーイィーム」

粗雑な構成要素が光に溶け込み呼吸とともに下方に排出され、聖名カィーム (קַיִם)を詠唱する。

「ハアアーイィーム」

P Cはこれを約21回繰り返す(回数を超えても問題ない。)

P Cが宣言する。

「今、汝ら兄弟姉妹の光体は、第二のアウゴエイデスに変容した。

第二のアウゴエイデスの名は、ツェレム・ハ・シクリート (הַשְׂכֵּלִית הַזָּהָבִית) なり。」

宣言とともに、P Cを包むアウゴエイデスがエメラルド色から黄金の輝きに変容する。P Cは僅かに空中に浮遊したまま、黄金の炎に包まれる。

参加者も順次、P Cのように宣言する。あなたの番である。

「第二のアウゴエイデスの名は、ツェレム・ハ・シクリート (הַשְׂכֵּלִית הַזָּהָבִית) なり。」

宣言とともに、一瞬に異様な消失感があなたを包む。エメラルド色のツェレムの放射は消失した。かわって熱い輝きがあなたを満たす。それは生ける液状の黄金である。あなたは黄金の輝きに包まれた。

炎のアウゴエイデスに包まれた団員たちの周囲を、獅子の顔をした翼ある者たちが乱舞している。それはメレキム天使団に属する天使の一形態である。そのひとりが、あなたの正面から近づき太陽神経叢(臍の上部)に体当たりする。天使は消滅し、臍の直上に鈍い痛みとともに、右の図形が血の滲む円盤状の焼き印として浮き出る。



P Cが宣言する。

「ピナー神殿に進むべし。」

八面体で構成された神殿の北東の中央に扉が現れた。

P Cは扉の上に、神聖四文字の第3文字ヴァウを描き、マーの聖名を発音する。

「ヴァハアヨウヤー (וַהּ אַהּ יוּיָאֵר) 」

漆黒の輝きが北東の壁いっぱい広がる。その光が扉から溢れだし、P Cのアウゴエイデスと融合する。P Cは黄金の炎を漆黒の乗物に囲まれたように、空中に浮遊しながら、扉のなかに引き込まれる。

参加者は順次、P Cに従う。あなたの番である。

扉の輝きが増大するとともに、瞬時にあなたはピナー神殿に転移した。

(3) 第三のアウゴエイデスの顕現 (ピナー神殿)

PCは、ピナー神殿の東壁に立ち、東面して聖なる呼吸を開始する。

「聖なる呼吸により第三のアウゴエイデスを纏わん。」

「ルアク (קראק)・・・エロヒム (ערוהים)・・・カィーム (קיים)」

それはすぐに朗々と響き渡る唱名に変わる。

「ルゥーアーハー・・・エルゥーオォーイィーム・・・ハアアーイィーム」

参加者は東面し、PCに唱和する。

吸気とともに頭頂から光が吸い込まれる様子を視覚化し、聖名ルアク (קראק) を詠唱する。

「ルゥーアーハー」

光が身体のなかに充満するとともに呼吸を停止し、聖名エロヒム (ערוהים) を詠唱する。

「エルゥーオォーイィーム」

粗雑な構成要素が光に溶け込み呼気とともに下方に排出され、聖名カィーム (קיים) を詠唱する。

「ハアアーイィーム」

PCはこれを約21回繰り返す(回数を超えても問題ない。)

PCが宣言する。

「今、汝ら兄弟姉妹の光体は、第三のアウゴエイデスに変容した。

第三のアウゴエイデスの名は、ツェレム・カイヤー (צלם קיאר) なり。」

宣言とともに、PCを包むアウゴエイデスが黄金から漆黒の影に変じた。PCは僅かに空中に浮遊したまま、アマ・エロヒムの影を宿しはじめる。

参加者も順次、PCのように宣言する。あなたの番である。

「第三のアウゴエイデスの名は、ツェレム・カイヤー (צלם קיאר) なり。」

宣言とともに、異様な消失感があなただを包む。黄金の炎は消失した。かわって伶俐な暗黒の影があなただを満たす。それはあまりにも巨大な光に曝されたとき人間が知覚する暗夜である。あなたは漆黒の光に包まれた。周囲を黒衣の婦人のような細い影が漂っている。あなたには、それらがアラリム天使団の嘆きの黒衣を纏った天使たちであると分かる。そのひとりが、あなたの正面から近づき胸に体当たりする。天使は消滅し、胸部に重く鈍い痛みとともに、右の図形が血の滲む円盤状の焼き印として浮き出る。



PCが宣言する。

「コクマー神殿に進むべし。」

神殿の南の中央に扉が現れた。

PCは扉の上に、神聖四文字の第2文字へーを描き、サグの聖名を発音する。

「ヒーヴァウヒヨー (הי'ו'והי'ו) 」

灰色の光芒が北東の壁いっぱい広がる。その光が扉から溢れだし、PCのアウゴエイデスと融合する。PCは漆黒の衣を灰色の雲に包まれ、空中に浮遊しながら、扉のなかに引き込まれる。

参加者は順次、PCに従う。あなたの番である。

扉の輝きが増大するとともに、瞬時にあなたはコクマー神殿に転移した。

(4) 第四のアウゴエイデスの顕現 (コクマー神殿)

PCは、コクマー神殿の東壁に立ち、東面して聖なる呼吸を開始する。

「聖なる呼吸により第4のアウゴエイデスを纏わん。」

「ルアク (קראק)・・・エロヒム (ערוהים)・・・カィーム (קיים)」

それはすぐに朗々と響き渡る唱名に変わる。

「ルゥーアーハー・・・エルゥーオォーイィーム・・・ハアアーイィーム」

参加者は東面し、PCに唱和する。

吸気とともに頭頂から光が吸い込まれる様子を視覚化し、聖名ルアク (קראק) を詠唱する。

「ルゥーアーハー」

光が身体のなかに充満するとともに呼吸を停止し、聖名エロヒム (ערוהים) を詠唱する。

「エルゥーオォーイィーム」

粗雑な構成要素が光に溶け込み呼吸とともに下方に排出され、聖名カィーム (קיים) を詠唱する。

「ハアアーイィーム」

PCはこれを約21回繰り返す(回数を超えても問題ない。)

PCが宣言する。

「今、汝ら兄弟姉妹の光体は、第四のアウゴエイデスに変容した。

第四のアウゴエイデスの名は、ツェレム・ハ・エロヒト (צלם האלוהית) なり。」

宣言とともに、PCを包むアウゴエイデスが灰色の雲に包まれた。PCは僅かに空中に浮遊したまま、コクマーの輝きを宿しはじめる。

参加者も順次、PCのように宣言する。あなたの番である。

「第四のアウゴエイデスの名は、ツェレム・ハ・エロヒト (צלם האלוהית) なり。」

宣言とともに、全身を高揚感が満たす。黒色の放射は消失した。かわって全身に穏やかな刺激を与える灰色の雲があなたを満たす。それは父なる神の力強い抱擁、日の老いたる者の灰色の鬚である。

アッパのアウゴエイデスに包まれた団員たちの周囲を、渦巻き状に回転する羽が漂っている。あなたには、それらがオフアニム天使団の天使たちであると分かる。そのひとりが、あなたの正面から近づき喉に体当たりする。天使は消滅し、喉に鈍い痛みとともに、右の図形が血の滲む円盤状の焼き印として浮き出る。



PCが宣言する。

「ケテル神殿に進むべし。」

神殿の北東の中央に扉が現れた。

PCは扉の上に、神聖四文字の第1文字ヨドを描き、アブの聖名を発音する。

「ヨーヒーヴィヴィヒー (יהויה) 」

純白の光線が北東の壁いっぱいに広がる。その光が扉から溢れだし、PCのアウゴエイデスと融合する。PCは灰色の衣を純白の光に捕まれながら、空中に浮遊しつつ、扉のなかに引き込まれる。

参加者は順次、PCに従う。あなたの番である。

扉の輝きが増大するとともに、瞬時にあなたはケテル神殿に転移した。

(5) アウゴエイデスの変容 (ケテル神殿)

PCは、ケテル神殿の東壁に立ち、西面して神殿内を見渡す。

「ネフェシュの外衣たるアウゴエイデスは、四枚の衣に託された聖守護天使である。ケテルの神殿に立ち、われわれはアウゴエイデスそのものを変容させねばならない。拡張されし三つの聖名の総和は702なり。」

PCは祭壇の上にヘブル文字のシンを描き、聖名を発する。
「ヨーハーヴァウヘー (יהוה) エヘイエー (יהוה) ヤー (יה) シャバス (שבת)
アウゴエイデスは質的変容を遂げたり、
新たなるアウゴエイデスの名は、ツェレム・ナラン (צלם נרן) なり。」

宣言とともに、PCを包むアウゴエイデスが純白の光線に包まれた。PCは僅かに空中に浮遊したまま、ケテルの輝きを宿しはじめる。

アダム・カドモンのアウゴエイデスに包まれた団員たちの周囲を、光が旋回する。あなたには、それらがカイオト・ハ・コデシュ天使団の天使たちであると分かる。そのひとりが、あなたの正面から近づき額に体当たりする。天使は消滅し、額に鈍い痛みとともに、右の図形が血の滲む円盤状の最後の焼き印として浮き出る。



ケテル神殿において完全に無垢の身となったあなたは、秋分の秘儀にあずかる。

PCは宣言する。

「この宮居は、光と闇の至聖処なり。
今、宮居の上に秋分の太陽があり、
光は闇と均衡せんとしている。
われは律法の宰相として、
秋分の執行を宣言する。」

7 秋分の主祭

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。
IaHaVaHa（ヤァー・ハァー・ヴァァー・ハァー）
HeVeHeIe（ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ）
VoHoIoHo（ヴォー・ホォー・イョー・ホォー）
HIHV（ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ）」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。秋分は到来せり。」

PCは、祭壇の西に立ち、東に向かってホルスのサインを行う。

PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の東に廻り、西に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の新しいパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。
わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。
汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

8 神殿からの帰還

PCは、神殿の南西に向かい扉をくぐる。

ケテル神殿からコクマー神殿に移る。扉をくぐる前にカイオト・ハ・コデシュの天使が額を撫でると紋章がひとつ消えた。あなたはピナー神殿に向かい北へ進む。あなたが扉をくぐる都度、天使の指が触れ、対応する血の紋章の上を撫でていく。各神殿で天使に接触される都度、紋章がひとつひとつ消えていく。

あなたはマルクト神殿に帰還し、アシムの天使が紋章を拭う。

9 諸天使の出立

PCは祭壇の北に行き、南を向く。

PC：「律法の宰相の加護に感謝する。
霊の虚の場所に戻りたまえ。」

PCは再度、祭壇の西に行き、東を向く。
PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (ה'ש'ו'ד))
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。
ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (ה'ש'ו'ד))
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上であり、下であり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

10 アウゴエイデスの吸収と地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、アウゴエイデスを吸収せん。」

PC：「大いなるアウゴエイデス、ツェレム・ナラン (צ'לם נ'רן))よ。
汝が衣はわがアッシャーのケテルに溶融せん。」

全員：「汝が衣はわがアッシャーのケテルに溶融せん。」

PC：「第四のアウゴエイデス、ツェレム・ハ・エロヒト (צ'לם ה'אלוה'ית))よ。
汝が衣はわがアッシャーのkokマーに溶融せん。」

全員：「汝が衣はわがアッシャーのkokマーに溶融せん。」

PC：「第三のアウゴエイデス、ツェレム・カイヤー (צ'לם ק'י'ר))よ。
汝が衣はわがアッシャーのピナーに溶融せん。」

全員：「汝が衣はわがアッシャーのピナーに溶融せん。」

PC：「第二のアウゴエイデス、ツェレム・ハ・シクリート (צ'לם ה'שכ'ר'ית))よ。
汝が衣はわがアッシャーのティファレットに溶融せん。」

全員：「汝が衣はわがアッシャーのティファレットに溶融せん。」

PC：「第一のアウゴエイデス、ツェレム・ハ・ティヴィート (צ'לם ה'טב'ע'ית))よ。
汝が衣はわがアッシャーのマルクトに溶融せん。」

全員：「汝が衣はわがアッシャーのマルクトに溶融せん。」

PC：「人の子らよ。すべてのアウゴエイデスは、去れり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

PC：「イエヘシュアー (ה'ש'ו'ה))とイエホバシャー (ה'ש'ו'ב'ה))の御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。(特別な手順は必要ない。)静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ(『魔法日記』用)を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I O S
RITUALE DE
AEQUINOCTIO AUTUMNO A

IMPRIMI POTEST: I O S
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
SEPTEMBER MCMXCX

秋分儀式 A E O 6 A

Copyrights © All rights reserved I O S 2006

2006年9月19日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。